

21世紀日本のこれから歩むべき道

桑原 洋

前 総合科学技術会議議員
(株)日立製作所 取締役

1. 日本のこれからの道

従属からの脱却

- 日本の20世紀後半は、人まね主体の繁栄
 - ・ 製品定義は外、改善 / 改良技術と安価、
高信頼度、高効率生産
 - ・ 主要20製品中、日本発はゼロ



- 21世紀は開拓の世紀、新しい文化の創造、世界産業へ
- エネルギー政策、技術開発についても同じ
 - ・ 統括機能の充実
 - ・ 産学官の国益を考えての共同歩調

2. 21世紀の産業

負の遺産解消、新しい社会システムの構築

■ 負の遺産

- ・ 環境問題 (CO₂、ごみ、水…)
- ・ 大量消費経済、不健康
- ・ 拡大した貧富の差



■ 新たな生活様式、社会システムへの転換

- ・ 資源再使用
- ・ 化石燃料からの脱却 (革新炉、核融合他)
- ・ 高度情報化社会、難病の克服
- ・ 世界平和への価値観創造

3. 日本エネルギー政策を考える

戦略的エネルギー政策の策定と効率的推進

- 長期的展望に基づいた国家戦略が見えない
 - ・ 司令塔不在、文科 - 経産省間の問題、
 - ・ 限定された原子力委員会の機能、
 - ・ 産学官一体推進の欠如、国民への説明不足



- 修正への道筋
 - ・ 国家エネルギー政策統括機関の設置(エネルギー全般)
 - ・ エネルギー関連国家予算の効率化
 - ・ 産学官での戦略の共有化
 - ・ 人材育成メカニズムの再構築
 - ・ 改革への積極行動を……

4. 研究開発の現場を見る

産学官連携による研究開発と経済発展

■ 現 状

- ・ 自由研究の下で乱立する研究テーマ、資源の分散、非集中
- ・ 目標を明確に決定した研究が弱い、研究のための研究が多い



■ 産学官の有機的連携

- ・ 科学(サイエンス)と技術(エンジニアリング)の区分け
- ・ 各々での計画策定、エンジニアリングは産との連携強化と出口の明確化
- ・ 大型国策開発における国による研究開発負担の明確化、民との協調強化

5. 日本の重電・電力技術の発展を願って

日本重電産業のグローバル産業への脱皮

- 経営の視点
 - ・ 市場は世界、最適地生産、優れた技術で主導権
- 研究開発の視点
 - ・ 社会ニーズの先取り(豊かなる想像力の発揮)、
目標へ向けて研究の選択と集中
- 避けて通れぬ企業再編
 - ・ 隣りと競うことからの脱却

6. 若人に期待する

フロントランナーの道への限りなき挑戦

- 若人の心の持ちようが日本の将来を決める
逞しき意志、あくなき闘争心、炎ゆる情熱
- 心を躍らせる、挑戦心をそそる研究開発の設定、
出口像の設定